



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

よりよい診療のために

口腔外科 科長 新谷 悟

昭和大学歯科病院では、病院理念として建学の理念「至誠一貫」を常に心掛け、患者さんの病気の治療だけでなく、不安や悩みを取り除くために、真心のこもった医療を目指しています。「真心のこもった」とは、「自分が受けたい治療を患者さんにも提供すること」と言い換えられるかも知れません。大学病院の治療に患者さんが期待することは、高度な専門性を持つ診断・治療に他ならないと考えます。その専門性を重要視する為に大学病院では歯科診療を多くの診療科で受けています。いくらかの診療科をまたがって治療を受けていただく意味はそこにあります。もうひとつ、大学病院の専門性を高めているのは、患者さんを個人の歯科医師が診るのではなく、科の責任において診療がなされるということだと思います。

そこで当科では、若い先生から上級医までが一つのグループとなって、初診時の外来診療から入院診療を通じてグループによる担当医制をとっております。担当医が責任を持って入院が必要な場合においても一貫して診療していくことで、診断・治療の継続性を高め、医療の質を保ち、同時に患者本位の診療を行うようにと努力しています。

外来診療では、担当の上級医の判断で、積極的に教授あるいは准教授による診断・治療を行い、さらに必要に応じて症例検討を行っています。

入院診療においては毎週月曜日から金曜日まで毎朝、教授・准教授・病棟医長により患者さんのベットサイドを訪れる形での病棟回診を行い、

入院患者に対する十分なケアを心がけるとともに、十分な把握と何か問題があった場合に適切な対応を行えるように気をつけています。

診療体制に関して診療科のインターネット・ホームページを通じて告知し、当科における診療内容を公開するとともに、メールにより、患者さんから色々のご相談やご質問を受け付け、正確な医療情報を提供するようにしています。患者さんからのメールは週に1-2通ほどの割合で受け取っています。

また、インターネットにおいては、医療機関からの紹介の場合に、紹介手続きが円滑にいくように紹介状がPDFでダウンロード出来るような配慮も行っています。さらに、毎週土曜日には、口腔がん無料相談もおこなっており、口腔がんの不安を覚えた人が気軽に相談できるような体制を整えています。この癌相談には毎週3-4名の受診者がいます。

今後ともよりよい治療を提供する為に、そして地域の歯科医の先生方から信頼され、ご紹介を頂けるよう、また紹介された患者さんが満足できるよう、診療科の全員で、高度に専門的な診断・治療を展開したいと考えております。よろしくお願ひ申し上げます。



口腔外科 紹介

口腔外科の診療内容

私たちの口腔外科は、口腔(口の中)、顎、顔面ならびにその周囲組織に生じた病気を取り扱う科です。

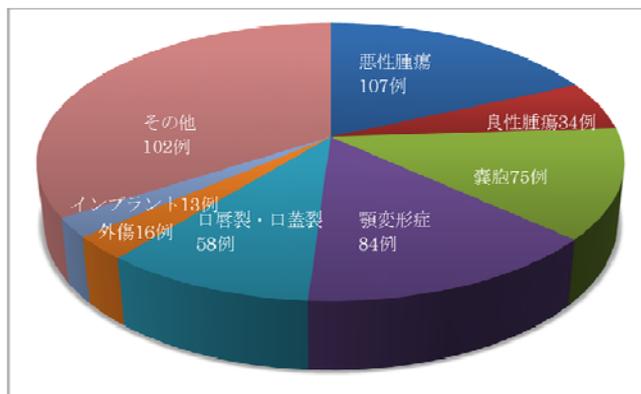
口腔外科で対象とする疾患には、智歯(親知らず)周囲炎、虫歯や歯周病が進行して起こる顎骨炎・蜂窩織炎、嚢胞(膿の袋)性病変、口腔粘膜疾患(口の中の粘膜にできる様々な病気)、腫瘍(悪性・良性)、口蓋裂・口唇裂、顎関節症、骨折などの顎顔面外傷、顎変形症、インプラント(人工歯根)治療などがあります。

特徴

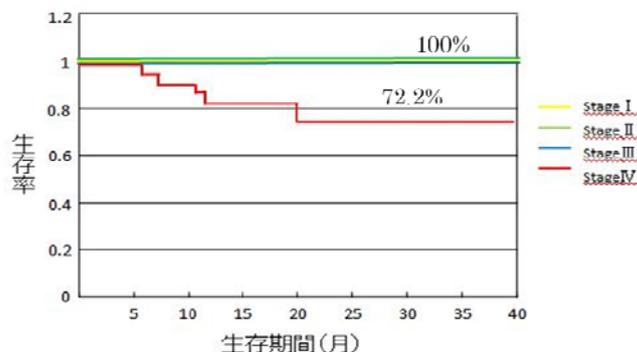
口(口腔)は「食べる」ための消化管で、全身疾患の症状が目に見えて現れやすいところでもあり、歯や口だけの「歯学知識」だけでなく「医学知識」を兼ね備え診療にあたっています。また、以下のような先進医療への取り組みを行っています。

1. 口腔癌への取り組み(免疫療法):
2008年に厚生労働省より先端医療開発特区として採択され東京大学医科学研究所(中村祐輔教授)と連携し、口腔癌に対するワクチン免疫療法を行っています。
2. 口腔インプラントへの取り組み(高度先進医療):
特定承認保険医療機関であり、口腔癌や唇顎口蓋裂などのために生じた顎骨を含む歯の欠損に対して顎骨の再建と口腔インプラント治療を行っています。
3. 低侵襲治療:
超音波骨切削機器を使用して顎骨への手術を行うことにより術後の神経障害や出血を最小にとどめることができます。さらに、硬性内視鏡の応用で、最小の口腔内切開で対応できるようになりました。また、超音波骨切削と硬性内視鏡により今まで保存できなかった歯が保存出来るようになり飛躍的な低侵襲手術が可能となっています。

外来・入院診療の実績



2009年度の外来新患数は5118名でした。(2008年度:5245名)。また、2009年度の再来患者数は37662名でした。入院実績では、延べ入院患者数は588名、その内訳としては、悪性腫瘍ならびにその関連疾患107例、良性腫瘍34例、嚢胞75例、顎変形症84例、口唇裂・口蓋裂58例、外傷16例、インプラント関連13例でした。



Kaplan-Meier法による口腔扁平上皮癌患者の生存曲線

口腔癌の治療成績に関しては、2006年から2009年まで当科で治療を行った口腔癌患者75例についての3年生存率は92.7%でした。Stage I～stage IIIにおける予後不良症例はなく、100%の生存率であり、stage IVのみで72.2%でした。

認定医など: 日本口腔外科学会指導医・専門医、日本がん治療認定医機構・暫定教育医、国際インプラント学会・指導医、歯科薬物療法学会・認定臨床治験担当者、イフェクションコントロールドクター、日本顎顔面インプラント学会・指導医、日本歯科間ドック学会・認定医

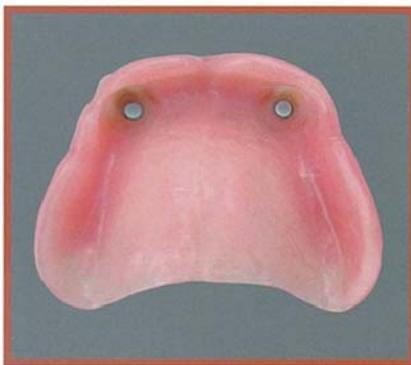
(科長 新谷 悟)



今回、少ない歯でも義歯(入れ歯)を安定させることのできるマグネットシステムを導入しました。本院でもご高齢の患者さんの来院が増加しています。歯を多く失った方には義歯が必要ですが、マグネットを用いることで義歯が安定し、多くの方の日常生活の質(QOL)を回復・維持することが可能となってきました。

マグネットシステムとは、磁石の力を利用して入れ歯を支台歯(支えとなる歯)に連結し、その維持、安定を図る装置のひとつです。入れ歯に磁石を埋め込み、これにくっつくキーパーと呼ばれる磁性ステンレス鋼を歯の根に土台として埋め込みます(図1,2,3)。

レジン床義歯



ジーシー マグフィット 使用

入れ歯の裏側

図 1



2本の残っている歯

図 2

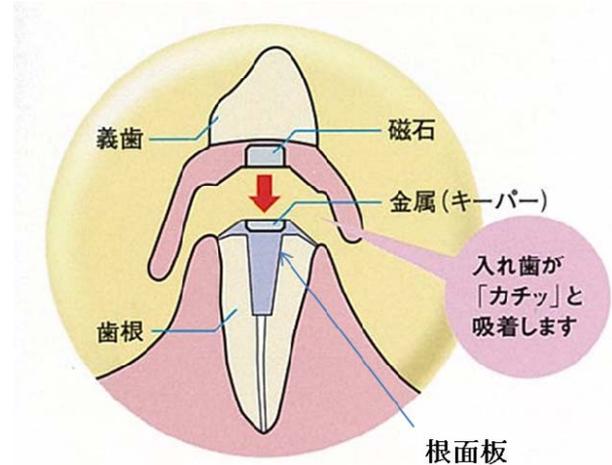


図 3

しかし、口腔内に義歯の磁石およびキーパーが存在することで、磁力を使うMRI画像でうまく検査ができない場合があります。これまでは、MRI検査の際には、歯につけてある根面板(土台)をすべて削り取るしかありませんでした。そこで、根面板を傷つけずキーパーのみを交換可能なシステムを導入しました(図4)。

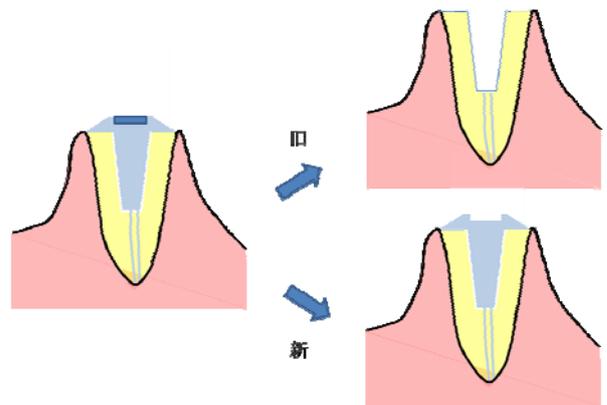


図 4

根面板や歯根を傷つけることなく容易にMRI検査ができるようになりました。検査終了後にはまた、キーパーのみをつけなおすことができます。

また、この磁石は最新医療であるインプラントにも応用可能です。インプラントを2~4本植えて磁石を用いて入れ歯を安定させる方法です。

マグネットシステムに興味がある方、治療をご希望の方は遠慮なく担当医にご相談ください。

日本歯科医学会プロジェクト研究 公開シンポジウム開催

日本歯科医学会プロジェクト研究「歯科診療における歯科用コーンビームCTの基礎的・臨床的評価」(研究代表者:岡野友宏昭和大歯科病院長)に関する公開シンポジウムが、8月28日、五反田ゆうぼうと会議室にて開催されました。約120名の大学・企業関係者が出席し、画質の客観的・主観的評価、患者被曝線量、ガイドラインの作成手順、歯内歯周治療・成育治療・インプラント治療・顎関節疾患や抜歯治療等における歯科用CTの活用について活発な意見交換がされました。

当院からは病院長の他、矯正科・榎宏太郎教授、小児歯科・島田幸恵講師、本学出身で千駄ヶ

谷で開業されている西堀雅一先生がそれぞれの専門分野における臨床応用について講演されました。

(病院長)



(写真)会議の司会を務めた岡野病院長(左)と新井嘉則日大特任教授

自衛消防隊訓練審査会報告

田園調布消防署主催の平成22年度自衛消防隊訓練審査会が9月10日(金)に田園調布せせらぎ公園多目的広場で開催され当院からは1号消火栓の部に男子隊【守衛室3名(株)パトロールサービス】と女子隊【番場(歯科放射線科)、高橋(歯科衛生士室)、石井(医事課)】の6名が出場しました。

練習は8月2日から始まり、暑い中練習に励んできました。時には隊員同士自主的に集まり、業務終了後に練習を行うこともありました。

結果は男子隊優勝、女子隊優良賞という好成績を修めることが出来ました。

隊員の皆様、本当にお疲れ様でした。

(管理課)



編集後記

ようやく暑い暑い夏が終わりを告げたようです。それにしても9月下旬までこんなに暑かったとは。地球温暖化の危機が叫ばれてからだいぶ時間が経ちますが、温暖化どころか灼熱化といった感じでしたね。

誰かさんじゃないけれどミゾユウ~の事態(ミゾウとか軽く言ってほしくない)と叫びたかったですね。

ところで最近、咬みつきサルや都内でのサルの出現が話題となりましたが、二年くらい前より歯科病院付近の夜道でハクビシンを目撃することがあります。生態系も変わってきたのでしょうか。。。味覚の秋を生み出す生態系だけは変わってほしくないですね。

皆様、健口で味覚の秋を楽しみながら酷暑の疲れを癒しましょう。

(K.T)

